

学校の概要

学校名	飯豊町立飯豊中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	1	9	18
生徒数	68	91	99	2	260	

研究の概要

1 研究主題

主体的に学ぶ生徒の育成 ～基礎・基本の定着を図る授業改善を通して～

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

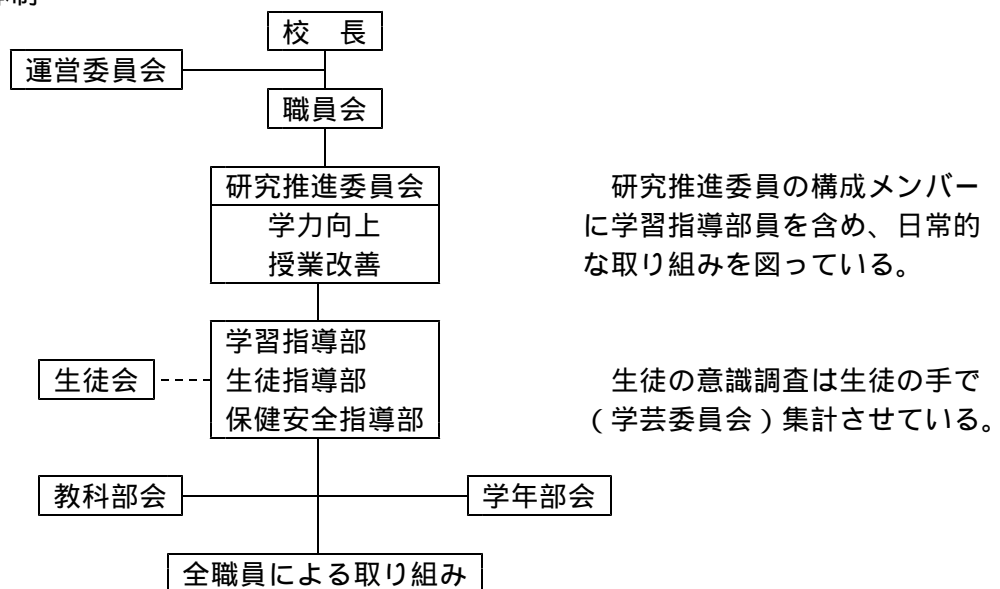
- ・ 1年生 技術家庭
生徒の意識調査の結果と学校の指導体制が充実しているため。
- ・ 2年生 数学
内容的にも量的にも学力の定着を図りにくい教科、学年であり、個人差が出やすいため。
- ・ 3年生 英語
学力検査の結果、学年で最も定着度の低い教科であり、意識調査からも苦手意識をもつ生徒が多いため。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ（研究の主眼） 発展学習や補充学習の場の設定、個が伸びる支援と関わり合いの研究</p> <p>研究の見通し（仮説） 【仮説1】適切な目標分析のもとに、指導過程の吟味や教材開発の工夫を図れば、基礎・基本が定着し、主体的に学ぼうとする意欲が育成されるのではないかと。 【仮説2】課題解決の場で、個が伸びる適切な支援を行うとともに、お互いに関わり合いながら学ぶ場を設定すれば、意欲的に課題追究に取り組むのではないかと。 【仮説3】指導計画の中に意図的に評価活動を組み入れ、その評価を生かして次の学習を構築すれば、さらに学習意欲が高まるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法 研究主題を達成し、目指す生徒像に迫るために、「授業改善」を柱として授業研究を核とした仮説の検証を行う。</p> <p>次の3点を考慮しながら仮説の検証に努めていく。 発展学習や補充学習の場の設定と内容の吟味 ⇒ 仮説1 指導過程の吟味、教材開発の工夫 個に応じた指導方法や指導体制の工夫 ⇒ 仮説2 個が伸びる適切な支援(ハード&ソフト)、学び合う場の設定 生徒の学力の評価を生かした授業の改善 ⇒ 仮説3 意図的な評価活動、評価を生かした指導</p>
--------------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ（研究の主眼） 個が伸びる支援と関わり合い、評価活動の研究</p> <p>研究の見通し（仮説） 【仮説1】適切な目標分析のもとに、指導過程の吟味や教材開発の工夫を図れば、基礎・基本が定着し、主体的に学ぼうとする意欲が育成されるのではないかと。 【仮説2】課題解決の場で、個が伸びる適切な支援を行うとともに、お互いに関わり合いながら学ぶ場を設定すれば、意欲的に課題追究に取り組むのではないかと。 【仮説3】指導計画の中に意図的に評価活動を組み入れ、その評価を生かして次の学習を構築すれば、さらに学習意欲が高まるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法 研究主題を達成し、目指す生徒像に迫るために、「授業改善」を柱として授業研究を核とした仮説の検証を行う。</p> <p>次の3点を考慮しながら仮説の検証に努めていく。 発展学習や補充学習の場の設定と内容の吟味 ⇒ 仮説1 指導過程の吟味、教材開発の工夫 個に応じた指導方法や指導体制の工夫 ⇒ 仮説2 個が伸びる適切な支援（ハード&ソフト）、学び合う場の設定 生徒の学力の評価を生かした授業の改善 ⇒ 仮説3 意図的な評価活動、評価を生かした指導</p>
----------------	---

（3）研究推進体制



平成15年度の研究成果と今後の課題

1 研究の成果

- ・ ゲストティーチャーの活用が有効であった。2人の教師によるT・Tは人的にできない教科もあるので、「掛け合う形」で説明を加えるなどして、内容の理解につなげることができた。また、生の声を聞くことでそこから納得と新しい視点が生まれ、次の学習に生きた。
- ・ 自力解決に移る前にある程度の見通しをもたせ、自分でコースを選ばせて少人数学習を展開していったことで、一人一人の学習の場を保障することができた。

- ・ 習熟度別少人数学習で、基礎コースを選んだグループに2人の教師が支援する場面を設けたことで、さらにきめ細かな指導をすることができた。
- ・ 習熟度によって手法を変え、基礎を固めるための指導方法と発展・応用力をつけるための指導方法が見られ、個に応じた学習が展開された。

2 今後の課題

- ・ 少人数指導やT・Tで効果を上げることはもちろん、一斉指導の力を鍛えたい。
- ・ T・Tや少人数学習において習熟度別学習をさらに日常的に考えていきたい。発展学習だけでなくドリル学習にも力を入れていきたい。
- ・ どの場面で、どのような順番で、どのような支援を与えるのかという、生徒の実態から判断した支援計画を吟味していきたい。
- ・ 「学習内容を振り返り次時に生きる自己評価」「評価を生かした指導」について再検討し、研究を深めていきたい。

学力等の把握のための学校としての取り組み

1 標準学力検査の分析

- ・ 毎年3月10日に行っている検査(1,2年生対象)の分析
- ・ 国語、社会、数学、理科、英語について、学力の定着が低い内容(領域、分野)を洗い出し、その年度の重点項目とする。

2 学習アンケート(生徒用)

- ・ 年2回(5月と12月)実施
- ・ 「わかる楽しい授業」という観点から、全ての教科について生徒の実態(感想)を調査する。
- ・ 生徒の学習規律や学習状況、少人数学習への取り組み等について自己評価させる。

3 定期テストの分析と家庭への情報提供

- ・ 年5回行い学年だより等に掲載
- ・ 定期テストの結果から見た全体的な傾向を表やグラフに表し、教科担任の分析を加える。

4 自己診断アンケート(教師用)

- ・ 年2回(7月と12月)実施
- ・ 指導過程の吟味や個が伸びる支援など、10項目について日常の授業を振りかえる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 「フロンティア授業研究会」の開催

- ・ 平成15年11月19日(水) 飯豊町立飯豊中学校
- ・ 置賜管内の小中学校に研究の成果(一教時内の選択制習熟度別学習、少人数へのT・Tなど)を発信し、それを吟味する中で新たな課題を見つけ、今後の方向性を模索していくことを目的とした。

2 「西置賜の教育」への掲載

- ・ 西置賜現職教育協議会で作成している学校研究集録に研究のまとめを掲載し、西置賜管内の小中学校に研究の成果を普及する。

3 「研究推進委員会だより」の発行

- ・ 授業研究会の方向性や役割分担を周知する。
- ・ 研究の成果と課題をまとめ、次の授業に生かす。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|--|--|---|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| 【指導体制】 | 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | その他 | | | |
| | 国語 | 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | 音楽 | 美術 | <input checked="" type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 保健体育 | その他 | | |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | 無 | |
-
-